児童の館外貸出は、わずかながら減ったが、全体に占める比率は43.8％と高い。

貸出業務における予約図書の件数は、310件である。〔表４～５～６〕

〔表４〕 館外個人貸出利用図書冊数
（昭和56．４～57．３）

分類別	冊数	構成比
総記	964冊	1.1%
哲学宗教	1,536	1.8
歴史地理	3,812	4 5
社会科学	6,132	7 3
自然科学	1,988	2 3
工学工業	2,423	2.8
産業	861	1.0
芸術	3,082	3 6
語学	335	0 4
文学	26,653	31.4
児童	37,239	43.8
計	85,025	100

開館日数　275日
一日平均貸出冊数　310冊

〔表５〕 館内利用図書冊数
（昭和56．４～57．３）

区分	冊数
郷土資料	7,860
一般資料	11,240
新聞雑誌	3,512
特許公報	3,725
計	26,337

開館日数　275日
一日平均利用冊数　96冊

〔表６〕 館内利用者数
（昭和56．４～57．３）

区分	人員
調査相談室	3,576
公開図書室	1,876
計	5,452

開館日数　275日
一日平均利用数　20人

2　調査相談業務

調査相談業務の中心は、調査依頼に対する資料提供および回答事務である。全体の主要件数では、前年とほぼ同じ1,043件であった。

調査依頼を職業別にみると、官公庁および民間企業からのものが、50％を含めてもっとも多く、学生の18％、自由業の９％と続き、この順位は、例年とほぼ同じであるが、学生が、９％減となったのが目立つ。

質問を主題別にみると、郷土に関するものが、76％と最も多く、ついで新聞雑誌17％、社会科学９％、文学７％の順となっている。

口頭、電話、文書の質問形式では、直接来館しての口頭による質問がもっとも多く46％、ついで文書によるもの29％、電話によるもの23％となっている。〔表７〕

〔表７〕 記録された参考質問の分析
（昭和56．４～57．３）

主題別／職業別	主題に関する分析												計	質問形式よる分析		
	郷土	総記	思想	歴史地誌	社会科学	自然科学	工工学業	産業	芸術	語学	文学	新聞雑誌		口答	電話	文書
官庁・会社員	230	21	17	37	52	15	14	11	14	18	29	74	532	172	165	195
商・工業	17	7	2	9	7	6	3	8	4	5	13	14	95	71	10	14
自由業	54	1	1	4	7	1			7	2	7	17	101	27	16	58
主婦	15	8	3	2	10	4	2	1	4	8	4	13	74	34	37	3
学生・生徒	46	5	8	11	20	4	5	4	6	4	18	59	190	164	14	12
無職	18	2	10	4	5	1			1	1	4	7	53	23	4	26
計	380	44	41	67	101	31	24	24	36	38	75	184	1,045	491	246	308

図書館間の相互貸借は、郵送料の値上りもあって、伸び悩んでいる。〔表８〕

〔表８〕 相互貸借件数
（昭和56．４～57．３）

	県内	県外	計
貸出	18件 30冊	3件 3冊	21件 33冊
借用	3件 3冊	11件 20冊	14件 23冊
計	21件 33冊	14件 23冊	35件 56冊

複写業務は、調査相談業務の一部としておこなわれているが、複写はいまでは資料の貸出と同じに考えて利用されている。特に、館外貸出のできない資料については、貸出に代るものとなっている。複写資料で特に多いものは、郷土資料、地元新聞、ついで一般資料となっている。〔表10〕

特許資料については、本館は県内の中央閲覧所になっているが、昭和56年度に受入れた特許公報類は、9,767冊（うち目次類3,470点）となっている。とくに制度改正にともない、公開公報がぼう大な量となって、現在では書庫の収容力の約25％が特許公報類に使用されている状況である。さらに特許の分類が変更になるなど、負担